

平成26年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター対応記録等から)



(尾瀬ヶ原で発生した傷病事故に消防と連携して救助活動を行う)

平成27年3月

公益財団法人 尾瀬保護財団

目 次

1	入山者数の状況.....	1
2	傷病事故の発生状況	2
	(1) 年別発生状況	2
	(2) 地区別発生状況	3
	(3) 原因別発生状況.....	3
	(4) シーズン別発生状況.....	4
	(5) 月別発生状況	4
	(6) 年齢別・男女別発生状況.....	4
	(7) 傷病者の居住地別発生状況	5
	(8) グループ人数別発生状況.....	6
	(9) 傷病事故の通報状況.....	6
3	救助活動.....	6
	(1) 救助隊出動状況	6
	(2) ヘリコプター活用状況	7

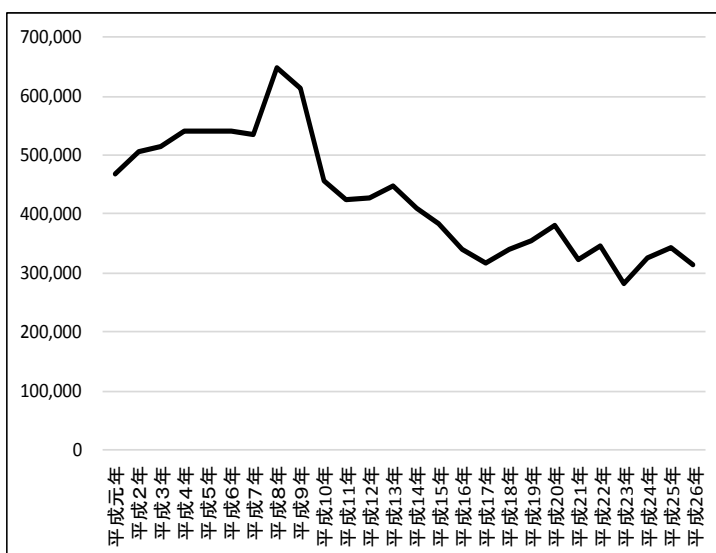
1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は道路開通後であり、おおよそ5月の大型連休後から10月末までであるが、同期間に環境省が各登山口に登山者カウンターを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者は平成2年度から平成7年度まで50万人台前半で推移し、平成8、9年度にはテレビ等マスコミでの頻繁な尾瀬の紹介により60万人台前半に増加した。こうした利用者数の増加により、尾瀬の生態系への影響が懸念されたが、平成10年度には景気低迷と週末の悪天候から入山者数は約46万人に減少し、平成14年度までに40万人台で推移し、平成17年度には平成元年からの計測以来最低の約31万8千人となった。

平成20年度以降は尾瀬国立公園の拡張エリアを含めての数値だが、ここ数年は横ばい～微増傾向を示していたが、平成23年度には東北地方太平洋沖地震やそれに伴う原子力発電所の事故、また7～9月にかけて尾瀬や周辺の集中豪雨による木道流失・通行止め等が影響し、28万1千人と計測以来初の30万人を下回る結果となった。

昨年度に関しては約34万人ということで、平成23年度以降入山者数が回復傾向にあり、原子力発電所の事故等による風評被害が沈静化していると考えられていたが、今年度の入山者数は約31万人と昨年度より減少していた。

年度	入山者数 (人)	対前年比 (%)
平成元年	467,090	
平成2年	505,840	108.3
平成3年	515,090	101.8
平成4年	539,790	104.8
平成5年	540,264	100.1
平成6年	542,058	100.3
平成7年	534,196	98.5
平成8年	647,523	121.2
平成9年	614,317	94.9
平成10年	455,409	74.1
平成11年	425,807	93.5
平成12年	428,446	100.6
平成13年	448,041	104.6
平成14年	409,942	91.5
平成15年	384,251	93.7
平成16年	341,558	88.9
平成17年	317,847	93.1
平成18年	341,369	107.4
平成19年	354,901	104.0
平成20年	381,700	107.6
平成21年	322,800	84.6
平成22年	347,000	107.5
平成23年	281,300	81.1
平成24年	324,900	115.5
平成25年	344,200	105.9
平成26年	315,400	91.6



尾瀬の入山者数の推移(環境省のデータから作成)

2 傷病事故の発生状況

平成26年度は、尾瀬沼ビジターセンターを（公財）尾瀬保護財団（以下、当財団とする）が受託できなかつたため、環境省より資料を提供していただき作成を行った。

（1）年別発生状況

平成26年度に当財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター（群馬県より管理受託）、別組織が管理する尾瀬沼ビジターセンター（環境省所管施設）職員が対応した傷病事故は63件で、ここ数年に比べて発生件数に大幅な減少が見られた。

年度	区分	発生件数 (件)	傷病者内訳				
			死亡	病気	行方不明	負傷	その他
8年度		16	0		0	16	0
9年度		33	2		0	31	0
10年度		49	4		0	45	0
11年度		55	1		0	54	0
12年度		70	2		0	68	0
13年度		46	0		0	46	0
14年度		51	2		0	49	0
15年度		33	1		0	32	0
16年度		46	1		0	45	0
17年度		59	0		0	59	0
18年度		80	3		0	77	0
19年度		109	1		0	94	14
20年度		85	1		0	73	11
21年度		86	1		0	70	15
22年度		71	0		0	58	13
23年度		98	0	4	0	69	25
24年度		85	1	3	1	62	18
25年度		90	0	0	0	77	13
26年度		63	0	1	0	60	2

* 病気: てんかんやぜんそくなど明確な病気(体調不良は含めない)

* 負傷: 体調不良を含めないもの

(2) 地域別発生状況

地域別では例年同様鳩待峠～山ノ鼻、尾瀬ヶ原の順で多く発生した。例年の傾向と比べると、尾瀬沼方面での発生件数がさらに少なくなっている。また、鳩待峠～山ノ鼻の事故件数は全体の66.7%となり、前年度の55.6%よりも大幅に増加している。

地区	区分	発生件数 (件)	発生比率 (%)	傷病者内訳					(参考) 平成25年
				死亡	病気	行方不明	負傷	その他	
鳩待峠～山ノ鼻(VC周辺含)		42	66.7		1		40	1	50
尾瀬ヶ原(研究見本園含)		13	20.6				13		13
大江湿原～尾瀬沼北岸(VC周辺含)		1	1.6				1		2
三平下～大江湿原		2	3.2				2		0
三平下～尾瀬沼南岸			0.0						0
沼山峠～大江湿原			0.0						2
大清水～尾瀬沼			0.0						1
沼尻～見晴			0.0						3
見晴～御池(平滑ノ滝、三条ノ滝含)		2	3.2				2		2
至仏山			0.0						2
燧ヶ岳			0.0						5
アヤマ平		1	1.6				1		0
その他			0.0						0
不明		2	3.2				1	1	10
合計		63	100.0	0	1	0	60	2	90

* 山ノ鼻地区3件(至仏山荘、山ノ鼻小屋、尾瀬ロッジ)周辺も含める

(3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、木道での転倒・転落による事故が55件と圧倒的に多く、全体の87.3%を占めており、木道整備区間が多い尾瀬国立公園の特徴を示している。原因は写真撮影や景色を眺めるなどよそ見による足の踏み外し、雨や雪で滑って転倒等様々である。今年度は、「疲労・低体温」を原因とする傷病事故の発生は見られていない。

木道は平坦ではあるが、杭の存在や高架になっている場所が多く、ちょっとした気の緩みが命に関わる大きな事故にもつながりかねないため、尾瀬利用者へ木道を歩く際の注意喚起等をより積極的に行っていくことも大切であると考えられる。

原因	区分	発生件数 (件)	発生比率 (%)	傷病者内訳						(参考) 平成25 年度	
				死亡	病気	行方不明	負傷		その他		
							自力下山	搬送	自力下山		搬送
木道上の転倒		55	87.3				44	11		55	
歩道上の転倒		4	6.3				4			11	
病気		1	1.6		1					0	
疲労・低体温		0	0.0							9	
落石		0	0.0							0	
道に迷い		0	0.0							0	
雪崩・雪渓崩落		0	0.0							0	
落雷		0	0.0							0	
徒渉失敗		0	0.0							0	
その他		3	4.8				1		2	7	
不明		0	0.0							8	
合計		63	100	0	1	0	49	11	2	90	

* 疲労・低体温:体調不良やふらつきなど

(4) シーズン別発生状況

今シーズン最も事故件数が多かったのは、例年同様に夏山時期であり、炎天下の行動による疲労等が原因となって事故を起こすものと思われる。また例年、夏山時期は入山者も多くなることから、発生件数も同様に増加している。

シーズン	区分	発生 件数 (件)	傷病者内訳						(参考) 平成25 年度	
			死亡	病気	行方 不明	負傷		その他		
						自力下山	搬送	自力下山		搬送
春山(4・5・6月)		21				15	5	1		32
夏山(7・8月)		25		1		20	4			34
秋山(9・10・11月)		17				14	2	1		24
合計		63	0	1	0	49	11	2	0	90

(5) 月別発生状況

月別では、6月の発生件数が14件(22.2%)と最も多く、次いで8月が13件(20.6%)となっている。ただ7月と10月の発生件数も12件となっており、シーズンをとおして事故が発生しているが例年同様9月の発生件数は少ない。

月	区分	発生 件数 (件)	傷病者内訳						(参考) 平成25 年度	
			死亡	病気	行方 不明	負傷		その他		
						自力下山	搬送	自力下山		搬送
4月		0								0
5月		7				6	1			7
6月		14				9	4	1		25
7月		12		1		9	2			19
8月		13				11	2			15
9月		5				4		1		9
10月		12				10	2			15
11月		0								0
合計		63	0	1	0	49	11	2	0	90

(6) 年齢別・男女別発生状況

年齢別では、50歳以上が85.7%と、中高年の傷病事故割合が圧倒的に高い。特に高齢になるほど事故が目立ち、この年代は救助隊によって搬送される重傷のケースも多い。性別で比較すると、今年度は女性の事故の方が男性より2倍以上多くなっている。

年齢	区分	発生 件数 (件)	男性							比率 (%)	
			死亡	病気	行方 不明	負傷		その他			合計
						自力下山	搬送	自力下山	搬送		
20歳未満		0								0	3.2
20代		3				1				1	
30代		3				1				1	
40代		1				1				1	27.0
50代		11		1		1				2	
60代		31				6	1	1		8	
70歳以上		12				3	3			6	
不明		2								0	
合計		63	0	1	0	13	4	1	0	19	30.2
比率			0.0	1.6	0.0	20.6	6.3	1.6	0.0	30.2	

死亡	病気	行方不明	女性				合計	比率 (%)	男女計 (%)	(参考) 平成25年度
			負傷		その他					
			自力下山	搬送	自力下山	搬送				
						0				
			1	1		2	6.3	9.5	11.1	
			2			2				
						0				
			8	1		9	60.3	87.3	81.1	
			20	3		23				
			4	2		6				
			1		1	2	3.2	3.2	7.8	
0	0	0	36	7	1	0	69.8	100.0	100.0	
0.0	0.0	0.0	57.1	11.1	1.6	0.0	69.8			

(7) 傷病者の居住地別発生状況

例年同様に、東京都・埼玉県・神奈川県を中心とした関東圏が大半を占めている（69.8%）。尾瀬登山者の居住地別割合をそのまま反映した結果と思われるが、近いために気軽な登山と油断してしまうことも原因と考えられ、時間や体力を考慮した計画と事前の準備が必要である。

また、大阪近郊を居住地にしている登山者の傷病事故件数に増加が見られた。

都道府県	区分	傷病者内訳						合計	(参考) 平成25年度	
		死亡	病気	行方不明	負傷		その他			
					自力下山	搬送	自力下山			搬送
岩手県								0	0	
宮城県								0	1	
秋田県								0	0	
福島県								0	2	
茨城県					1			1	1	
栃木県					1			1	0	
群馬県					3		1	4	5	
埼玉県					9	1	1	11	10	
千葉県					4			4	9	
東京都					11	5		16	20	
神奈川県					5	2		7	15	
新潟県						1		1	2	
福井県								0	0	
長野県					1			1	1	
山梨県								0	1	
岐阜県								0	1	
静岡県								0	2	
愛知県			1		1			2	1	
滋賀県								0	0	
和歌山県								0	1	
石川県								0	1	
富山県								0	1	
京都府					1	1		2	1	
大阪府					4			4	1	
福岡県								0	2	
熊本県					1			1	1	
大分県						1		1	0	
兵庫県					1			1	0	
奈良県								0	0	
愛媛県					1			1	0	
島根県								0	0	
岡山県								0	0	
広島県								0	0	
海外(中国)								0	1	
不明					5			5	10	
合計		0	1	0	49	11	2	63	90	

(8) グループ人数別発生状況

例年同様に2人以上の小グループの事故発生割合が49.2%と高く、搬送を伴う重度な事故も7件と多い。一方、ここ数年単独者の事故発生件数は減少に転じていたが、今年度は増加が見られた。

傷病事故発生時に手当やレスキューを真っ先に行うのは、本人や同行者であることが多い。また、重度な傷病事故の場合にはセルフレスキューが困難であることから、単独行は十分な注意が必要である。

形態	区分	発生 件数 (件)	傷病者						比率 (%)	(参考) 平成25 年度	
			死亡	病気	行方 不明	負傷		その他			
						自力 下山	搬送	自力 下山			搬送
単独		20				18	1	1		31.7	8.9
グループ		31				23	7	1		49.2	56.7
ツアー		9				5	3		1	14.3	17.8
不明		3				3				4.8	16.7
合計		63	0	0	0	49	11	2	1	100.0	100

*グループ:同行者が1名以上の場合は数に含める

(9) 傷病事故の通報状況

通報の約5割が、傷病者本人がビジターセンターや山小屋へ来所し、口頭で行っている。携帯電話の通話エリア圏外が大半の尾瀬では、直近の有人施設に駆け込む必要があるため、ここからビジターセンターへ連絡が入ることもある。

なお、尾瀬沼地区の山小屋やビジターセンターには、救助隊用の簡易無線が配備されているため、近隣の山小屋に駆け込まれた場合でも、迅速に救助活動を開始できるようになっている。

通報方法	区分	通報者					合計	比率 (%)	(参考) 平成25 年度
		本人	家族 同行者	他人	山小屋 救助隊	不明			
口頭		34	4	5	11	4	58	92.1	70.0
携帯電話							0	0.0	3.3
電話					2		2	3.2	10.0
アマチュア無線							0	0.0	0.0
その他無線				2	1		3	4.8	5.6
不明							0	0.0	11.1
合計		34	4	7	14	4	63	100.0	100
比率		54.0	6.3	11.1	22.2	6.3	100.0		

*山小屋・救助隊・ビジターセンター職員対応のものも含める

3 救助活動

(1) 傷病者対応時の出動状況

担架搬送の場合には、ビジターセンター職員は救助隊の臨時職員としても出動している。傷病対応は複数の機関が協力して活動するため、発生件数よりも出動回数人員が多くなっている。

年度	出動区分	消防	救助隊	ビジターセンター	一般	合計	発生件数(件)
平成 8年度		2	4	12	0	18	16
平成 9年度		12	20	10	0	42	33
平成10年度		8	33	16	0	57	49
平成11年度		9	28	27	0	64	55
平成12年度		11	18	45	0	74	70
平成13年度		9	21	22	0	52	46
平成14年度		9	14	31	0	54	51
平成15年度		8	10	19	0	37	33
平成16年度		-	-	-	-	-	46
平成17年度		16	12	35	0	63	59
平成18年度		17	22	77	0	116	80
平成19年度		10	18	106	2	136	109
平成20年度		15	12	68	0	95	85
平成21年度		16	18	86	1	121	86
平成22年度		21	22	69	0	112	71
平成23年度		15	15	98	0	128	98
平成24年度		16	19	85	0	120	85
平成25年度		7	16	87	0	110	90
平成26年度		12	12	63	0	87	63

* 消防: 防災ヘリを要請した場合(担架搬送も含める)

* 救急隊: 消防の件数+救急車のみ要請した場合

* ビジターセンター職員が関与しているものすべて

(2) ヘリコプター活用状況

傷病事故63件のうち9件でヘリコプターを依頼し、9人を搬送した。地域別では山ノ鼻地区9件、尾瀬沼地区0件となった(前年度は山ノ鼻6件、尾瀬沼1件)。今後も現場の救助組織と消防・防災ヘリとの連携を強化し、傷病者をより迅速に医療機関に引き渡せるよう体制整備を充実させる必要があると思われる。

年度	出動区分	依頼件数	負傷者救助	病人等救助	行方不明捜索	遺体収容	收容人数合計
平成 8年度		2	1	1	0	0	2
平成 9年度		5	3	1	1	0	5
平成10年度		3	3	0	0	0	3
平成11年度		5	5	0	0	0	5
平成12年度		7	5	1	1	0	7
平成13年度		6	6	0	0	0	6
平成14年度		6	4	1	1	0	6
平成15年度		6	4	1	0	0	5
平成16年度		7	7	0	0	0	7
平成17年度		12	8	4	0	0	12
平成18年度		8	3	3	0	2	8
平成19年度		11	6	4	0	0	10
平成20年度		13	10	3	0	0	13
平成21年度		9	7	2	0	0	9
平成22年度		17	14	3	0	0	17
平成23年度		14	10	4	0	0	14
平成24年度		15	11	2	1	1	15
平成25年度		7	7	0	0	0	7
平成26年度		9	8	1	0	0	10
合計		162	122	31	4	3	160

* 負傷者救助: 他の項目でその他に含まれていたものも含めて記載する